

長期・年間マージン算出の考え方について

2026年2月9日

- ◆ マージン設定の考え方について、業務規程では「実需給断面におけるマージンが必要な場合を除き、原則としてマージンの値をゼロとする」（第128条第2項）と規定しており、現状、以下の連系線を除いては、一次調整力・二次調整力①②・三次調整力①②のエリア外約定量のマージンを除き、実需給断面におけるマージンを0としている。

長期・年間計画におけるマージン設定連系線※1（以下、「5連系線」という）

- 北海道本州間連系設備（順・逆方向）
- 東北東京間連系線（順方向）
- 東京中部間連系設備（順・逆方向）
- 北陸フェンス（順方向）
- 中国四国間連系線（順方向）

- ◆ 本資料は、上記5連系線に設定している実需給断面に必要なマージン（以下、「既存のマージン」という）に加え、一次調整力・二次調整力①②・三次調整力①②のエリア外約定量の直近1年間の設定実績等を確認し、2026年度以降の長期・年間マージンの算出の考え方について確認するものである。

※1 一次調整力・二次調整力①②・三次調整力①②のエリア外約定量のマージンを除く。

1. 長期・年間マージン策定におけるマージン設定方針（案）について

- 1-1. 直近1年間のマージン設定実績および系統利用へ与える影響の確認結果まとめ
- 1-2. マージン設定実績（2024年10月1日～2025年9月30日）
- 1-3. 系統利用に与える影響（2024年10月1日～2025年9月30日）
- 1-4. 現在検討を進めている既存のマージンに関わる課題の取扱い

2. 長期・年間マージンの具体的な設定方法について

2-1. 年間断面（2026,2027年度）におけるマージン設定値の考え方について（案）

- 2-1-1. 年間計画における各連系線におけるマージン設定値（1）～（5）

2-2. 長期断面（2028～2035年度）におけるマージン設定値の考え方について（案）

- 2-2-1. 長期計画における各連系線におけるマージン設定値（1）

2-3. 実需給断面におけるマージンの確保理由におけるマージン区分概要

- 2-3-1. 実需給断面におけるマージンの確保理由（1）～（4）

2-4. 全国の概念図

- 2-4-1. 全国の概念図（マージン合計値）（案）

1. 長期・年間マージン策定におけるマージン設定方針（案）について

- 1-1. 直近1年間のマージン設定実績および系統利用へ与える影響の確認結果まとめ
- 1-2. マージン設定実績（2024年10月1日～2025年9月30日）
- 1-3. 系統利用に与える影響（2024年10月1日～2025年9月30日）
- 1-4. 現在検討を進めている既存のマージンに関わる課題の取扱い

2. 長期・年間マージンの具体的な設定方法について

2-1. 年間断面（2026,2027年度）におけるマージン設定値の考え方について（案）

- 2-1-1. 年間計画における各連系線におけるマージン設定値（1）～（5）

2-2. 長期断面（2028～2035年度）におけるマージン設定値の考え方について（案）

- 2-2-1. 長期計画における各連系線におけるマージン設定値（1）

2-3. 実需給断面におけるマージンの確保理由におけるマージン区分概要

- 2-3-1. 実需給断面におけるマージンの確保理由（1）～（4）

2-4. 全国概念図

- 2-4-1. 全国概念図（マージン合計値）（案）

設定方針（案）

既存マージンの直近1年間の設定実績およびスポット分断実績をシート6～10にまとめた。確認の結果、実績からはマージン設定の考え方を見直さなければならないような有意な点は見られなかったことから、基本的には前年度と同様に「実需給断面におけるマージン設定の考え方」により設定することとしてはどうか。

また、需給調整市場にて取引される調整力のためのマージン（以下、 Δ kWマージンという）は、前日断面に定まるため、長期・年間断面とも設定しないこととする。

現在検討を進めている既存マージンに関わる課題の取扱いについて

現在、シート11に記載する既存マージンに関わる課題の検討を関係一般送配電事業者（以下、一送という）と個別に進めているところ。なお、いずれの検討も長期・年間マージン設定の考え方に影響はない。

1-1.直近1年間のマージン設定実績および系統利用へ与える影響の確認結果まとめ

- ◆ 5連系線における年間計画の設定値と直近1年間の設定実績^{※1}を比較するとともに、マージン設定の系統利用への影響についてとりまとめた。
- ◆ 確認の結果、電力系統を安定に保つために必要なマージンが適切に設定されており、マージン設定の考え方を見直さなければならないような有意な点は見られなかった。

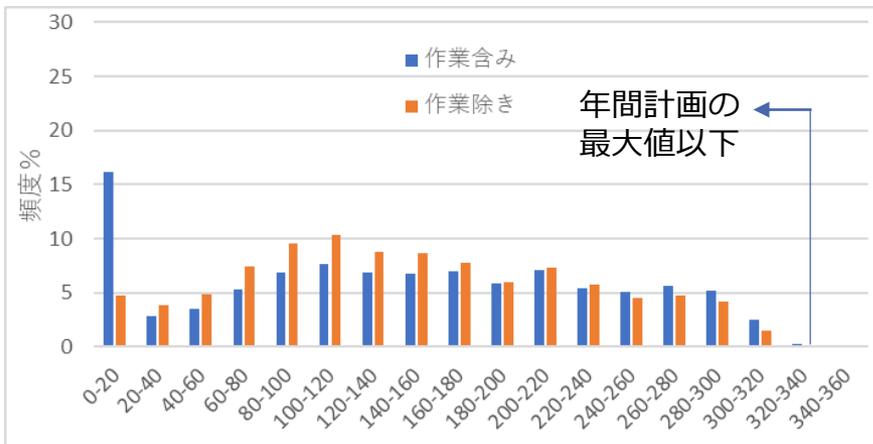
※1 年間計画において設定していない一次調整力・二次調整力①②・三次調整力①②のエリア外約定量のマージンは実績より控除している。

連系線・連系設備	マージン設定実績と系統利用への影響 概要
北海道本州間連系設備 (順・逆方向)	両方向とも設定した範囲に収まる(シート7,9参照) 順方向のスポット市場分断が前期間比で増加した(シート10参照)
東北東京間連系線 (順方向)	設定した範囲に収まる(シート7,9参照) 順方向のスポット市場分断は前期間比で増加した(シート10参照)
東京中部間連系設備 (順・逆方向)	両方向とも年間の設定値と乖離は無い(シート8,9参照) 逆方向のスポット市場分断は前期間比で増加した(シート10参照)
北陸フェンス (順方向)	設定した範囲に収まる(シート8,9参照) スポット市場分断は発生していない(シート10参照)
中国四国間連系線 (順方向)	年間計画の最大値と大きな乖離があった(シート8,9参照) スポット市場分断は発生していない(シート10参照)

1-2. マージン設定実績 (2024年10月1日～2025年9月30日)

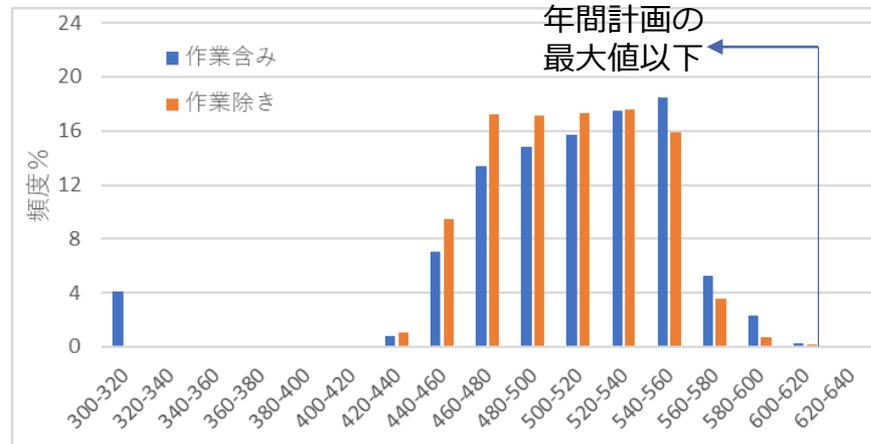
■ 北海道本州間連系設備は、当日断面において想定需要に応じた必要量が設定されている。

北海道本州間 (順方向)



当該期間における年間計画値は0～359MW

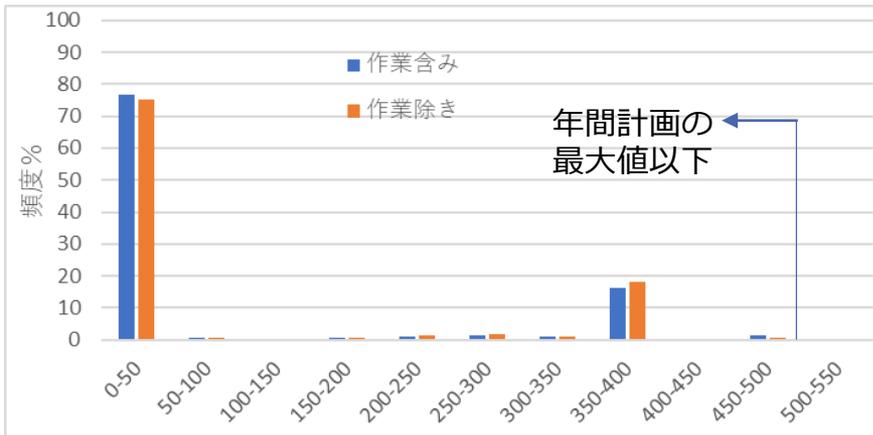
北海道本州間 (逆方向)



当該期間における年間計画値は300～609MW

■ 東北東京間連系線 (順方向) では、気象情報発令等による設定が期間中の約23%の実績であった。

東北東京間 (順方向)

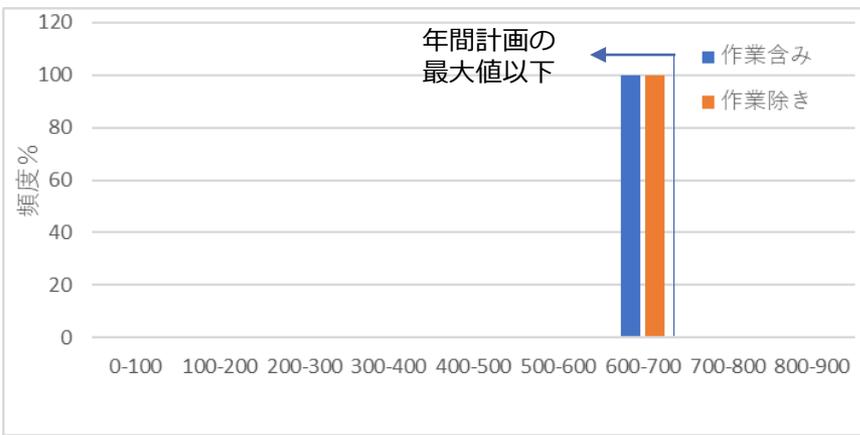


当該期間における年間計画値は0～450MW

1-2. マージン設定実績 (2024年10月1日~2025年9月30日)

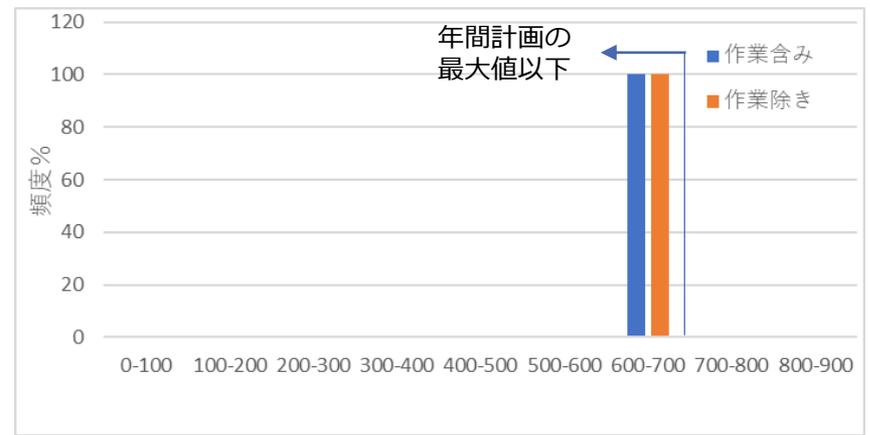
■ 東京中部間連系設備では、周波数制御 (EPPS) に対応したマージンが設定されている。

東京中部間 (順方向)



当該期間における年間計画値は600MW

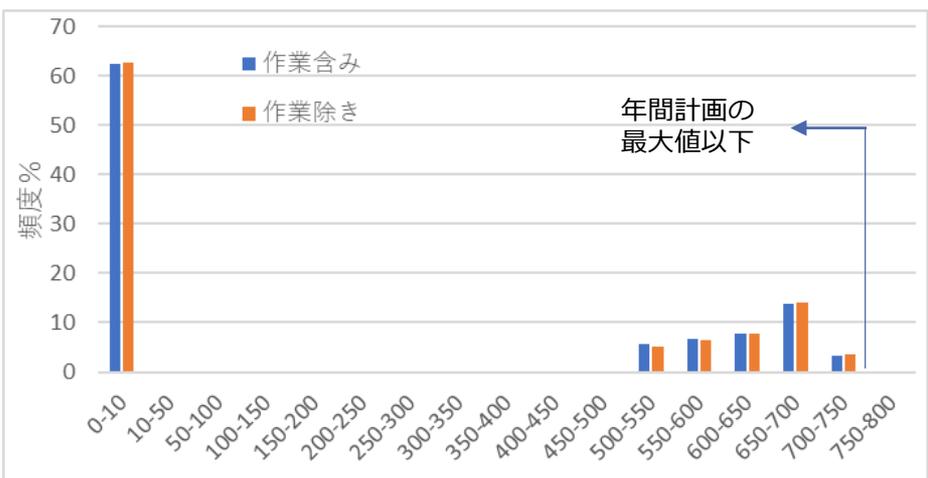
東京中部間 (逆方向)



当該期間における年間計画値は600MW

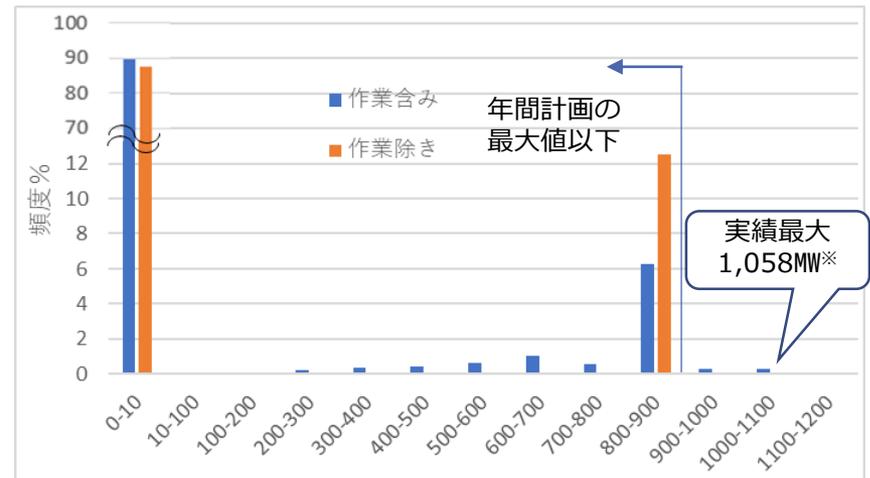
■ 北陸フェンス・中国四国間連系線は、当日断面においてエリア予備力に応じた必要量が設定されている。

北陸フェンス (順方向)



当該期間における年間計画値は0~700MW

中国四国間 (順方向)



当該期間における年間計画値は0~860MW

※ 2024年度、関西四国間連系設備双極停止追加作業(EPPS量ゼロ)によるもの
 また、実績最大が四国最大機1,050MWを超過しているが、算出方法が
 最大電源ユニット相当 + (重負荷期のH3需要×3%) - TSOが確保
 する調整力で算出していることによるもの

- ◆ 各連系線（中国四国間連系線※¹を除く）において当日断面※²の最大値と年間計画の最大値に大きな乖離は無く、年間計画において適切な値を設定していたといえる。

連系線名	方向	当該連系線の作業	平均(MW)	最小(MW)	最大(MW)		最頻値(MW)		最頻度数(コマ)	母数(コマ)
					()は2024年間計画最大値に対する割合		【最もデータ数が多い値】 ()は最頻値発生率			
北海道本州間連系設備	順方向	作業時含み	138	0	330	(91.9%)	0	(14.5%)	2544	17520
		作業時除き	143	0	330	(91.9%)	100	(5.2%)	645	12524
	逆方向	作業時含み	499	0	600	(98.5%)	540	(9.7%)	1697	17520
		作業時除き	501	410	600	(98.5%)	520	(9.5%)	1219	12768
東北東京間連系線	順方向	作業時含み	79	0	450	(100%)	0	(76.7%)	13434	17520
		作業時除き	85	0	450	(100%)	0	(74.9%)	11219	14971
東京中部間連系設備	順方向	作業時含み	600	600	600	(100%)	600	(100%)	17520	17520
		作業時除き	600	600	600	(100%)	600	(100%)	7054	7054
	逆方向	作業時含み	600	600	600	(100%)	600	(100%)	17520	17520
		作業時除き	600	600	600	(100%)	600	(100%)	6961	6961
北陸フェンス	順方向	作業時含み	235	0	700	(100%)	0	(62.4%)	10940	17520
		作業時除き	234	0	700	(100%)	0	(62.7%)	10708	17072
中国四国間連系線	順方向	作業時含み	93	0	1058	(123%)	0	(89.8%)	15737	17520
		作業時除き	107	0	860	(100%)	0	(87.5%)	4603	5260

※¹ 2024年度、関西四国間連系設備双極計画外停止作業追加（双極停止によりEPPS見込み量がゼロになる）により当日断面の最大値と年間計画の最大値に大きな乖離が生じた。

※² 数値は系統情報サービスにて公表している翌日（更新後）から電力需給調整力取引所が公表している一次調整力・二次調整力①②・三次調整力①②のエリア外約定量の取引結果を控除。

1-3.系統利用に与える影響（2024年10月1日～2025年9月30日）

- ◆ 5連系線のスポット市場分断状況※1
- ◆ 北海道本州間連系設備（順・逆方向）では、新北本作業（主に広域系統整備計画）によりスポット市場分断が前期間比で増加した。
- ◆ 東北東京間連系設備（順方向）では、気象マージンの増加（主に暴風・暴風雪）によりスポット市場分断（マージン設定時）が前期間比で増加した。
- ◆ 東京中部間連系設備（逆方向）では、FC作業の増加（主に新信濃2FC・佐久間FC）によりスポット市場分断が前期間比で増加した。

[参考]2023/10/1～2024/9/30

連系線	方向	当該連系線作業	スポット分断※2		内マージン設定時※2		スポット分断※2		内マージン設定時※2	
			数値	(割合)	数値	(割合)	数値	(割合)	数値	(割合)
北海道本州間 連系設備	順方向	作業時含み	2,770	(15.8%)	1,948	(11.1%)	1,480	(8.4%)	1,178	(6.7%)
		作業時除く	1,824	(10.4%)	1,597	(9.1%)	439	(2.5%)	437	(2.5%)
	逆方向	作業時含み	1,921	(11.0%)	1,882	(10.7%)	861	(4.9%)	861	(4.9%)
		作業時除く	1,377	(7.9%)	1,338	(7.6%)	452	(2.6%)	452	(2.6%)
東北東京間 連系線	順方向	作業時含み	4,161	(23.8%)	1,940	(11.1%)	5,256	(29.9%)	407	(2.3%)
		作業時除く	3,738	(21.3%)	1,764	(10.1%)	2,588	(14.7%)	367	(2.1%)
東京中部間 連系設備	順方向	作業時含み	1,027	(5.9%)	1,009	(5.8%)	807	(4.6%)	807	(4.6%)
		作業時除く	514	(2.9%)	496	(2.8%)	67	(0.4%)	67	(0.4%)
	逆方向	作業時含み	7,184	(41.0%)	7,119	(40.6%)	6,222	(35.4%)	6,196	(35.3%)
		作業時除く	1,725	(9.8%)	1,660	(9.5%)	875	(5.0%)	875	(5.0%)
北陸フェンス	順方向	作業時含み	0	(0.0%)	0	(0.0%)	8	(0.0%)	8	(0.0%)
		作業時除く	0	(0.0%)	0	(0.0%)	8	(0.0%)	8	(0.0%)
中国四国間連系線	順方向	作業時含み	7	(0.0%)	5	(0.0%)	192	(1.1%)	192	(1.1%)
		作業時除く	4	(0.0%)	4	(0.0%)	2	(0.0%)	2	(0.0%)

※1 数値は系統情報サービスにて公表している翌々日（策定）を使用。一次調整力・二次調整力①②・三次調整力①のエリア外約定量のマージンを含む。

※2 30分コマ数で記載。()内は各期間に占める割合を示す。作業は翌々日段階での計画分を抽出した。

◆ 東北東京間連系線の潮流調整実績

東北東京間連系線では、気象の悪化が予想される断面においてスポット前にマージンを設定しているが、スポット後に新たに気象の悪化が予想されマージンを設定した場合には潮流調整が必要になる。直近1年の実績では6.4%の時間において、延べ11,096万kWhの潮流調整を行った。

- ◆ 表中の既存マーヅンに関する課題については、種別ごとに関係一送と個別に検討を進めているところ。なお、いずれの検討も長期・年間マーヅン設定の考え方に影響はない。

対象マーヅン（関係一送）	検討概要	今後の取扱い
①最大電源脱落マーヅン （北陸電力送配電、四国電力送配電）	• 2026年度以降のマーヅン算出方法	引き続き、関係一送と広域機関で需給調整市場の議論状況を踏まえた取扱いの検討を行う

1. 長期・年間マージン策定におけるマージン設定方針（案）について

- 1-1. 直近1年間のマージン設定実績および系統利用へ与える影響の確認結果まとめ
- 1-2. マージン設定実績（2024年10月1日～2025年9月30日）
- 1-3. 系統利用に与える影響（2024年10月1日～2025年9月30日）
- 1-4. 現在検討を進めている既存のマージンに関わる課題の取扱い

2. 長期・年間マージンの具体的な設定方法について

2-1. 年間断面（2026,2027年度）におけるマージン設定値の考え方について（案）

- 2-1-1. 年間計画における各連系線におけるマージン設定値（1）～（5）

2-2. 長期断面（2028～2035年度）におけるマージン設定値の考え方について（案）

- 2-2-1. 長期計画における各連系線におけるマージン設定値（1）

2-3. 実需給断面におけるマージンの確保理由におけるマージン区分概要

- 2-3-1. 実需給断面におけるマージンの確保理由（1）～（4）

2-4. 全国概念図

- 2-4-1. 全国概念図（マージン合計値）（案）

◆ 年間マージンの具体的な設定方法は以下のとおりとしてはどうか。

- 既存マージンは、現行の実需給断面におけるマージン設定の考え方※1に基づき設定する。
- 参考値（最大値）については、第一・第二年度とも平日の各月の値を算出する。
- マージン設定値・参考値に区分ごとの内訳がある場合は、合計値とともに内訳も表示する。

※1 マージン設定の考え方は、シート24～27「2-3-1.実需給断面におけるマージンの確保理由」の通り。

2-1-1.年間断面における各連系線におけるマージン設定値（1）

◆ 年間断面で各連系線（各フェンス）の設定するマージンは以下のとおり。

連系線	方向	設定するマージンのパターン	
		既存のマージン	記載例
北海道本州間連系設備	順・逆	実需給断面で設定する値	(1)
東北東京間連系線	順方向	蓋然性のある値の範囲	(2)
	逆方向	設定なし	—
東京中部間連系設備	順・逆	実需給断面で設定する値	(1)
中部フェンス	順・逆	設定なし	—
北陸フェンス	順方向	蓋然性のある値の範囲 ^{※1}	(2)
	逆方向	設定なし	—
関西フェンス	順・逆	設定なし	—
関西中国間連系線	順・逆	設定なし	—
関西四国間連系設備	順・逆	設定なし	—
中国四国間連系線	順方向	蓋然性のある値の範囲	(2)
	逆方向	設定なし	—
中国九州間連系線	順・逆	設定なし	—

※1 放射状系統時に限る。

2-1-1.年間断面における各連系線におけるマージン設定値（2）

記載例（1） 実需給断面におけるマージンの値を設定する連系線の場合

- ・ 実需給断面におけるマージンの値を設定する。

対象：北海道本州間連系設備（順・逆方向）、東京中部間連系設備（順・逆方向）

◆ 設定値

【第一・第二年度目とも】 ※表中の値は、2024年度末に計算した2025年度の東京中部間連系設備の値

(MW)

連系線	方向	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
東京中部間 連系設備	東京⇒中部	600	600	600	600	600	600	600	600	600	600	600	600	
	中部⇒東京	600	600	600	600	600	600	600	600	600	600	600	600	

◆ 設定値・参考値内訳【第一年度目・第二年度目とも、内訳がある場合のみ記載】

【第一・第二年度目とも】 ※表中の値は、2024年度末に計算した2025年度の北海道本州間連系設備の4～7月の値

(MW)

方向	区分	4月				5月				6月				7月			
		平P	平N	休P	休N												
北海道⇒東北	C1	250	280	290	290	290	310	310	310	280	320	300	320	280	320	290	320
		250	280	290	290	290	310	310	310	280	320	300	320	280	320	290	320
東北⇒北海道	B1	530	550	550	550	550	560	560	560	550	570	560	570	550	570	550	570
	C1	430	450	450	450	450	460	460	460	450	470	460	470	450	470	450	470
		530	550	550	550	550	560	560	560	550	570	560	570	550	570	550	570

区分は、マージンの区分を示す。シート30参照

2-1-1.年間断面における各連系線におけるマージン設定値（3）

記載例（2） 既存のマージンを蓋然性のある値で設定している連系線の場合

- ・ 蓋然性のある値の範囲で設定する。

対象：東北東京間連系線（順方向）、北陸フェンス（順方向）、中国四国間連系線（順方向）

- ◆ 設定するマージンのうち既存のマージンにおける「蓋然性のある値の範囲」の考え方については、現状から変更なし。

対象連系線	考え方
東北東京間連系線 （順方向）	➤ 実需給断面でマージン設定時に考慮する超高圧ユニット送電線に接続している発電機の発電計画を参考に主に設定実績等を踏まえ設定する。
北陸フェンス、 中国四国間連系線※1 （順方向）	➤ 実需給断面でマージン設定時に考慮する最大ユニット相当量の対象となる発電機の発電計画を参考に、主に設定実績等を踏まえ設定する。

※1 関西四国間連系設備からの受電期待量を考慮する。

2-1-1.年間断面における各連系線におけるマージン設定値（4）

記載例（2） 既存のマージンを蓋然性のある値で設定している連系線の場合

- ・蓋然性のある値の範囲で設定する。

対象：東北東京間連系線（順方向）、北陸フェンス（順方向）、中国四国間連系線（順方向）

◆ 設定値

【第一・第二年度目とも】 ※表中の値は、2024年度末に計算した2026年度の北陸フェンスの値を参考に記載

(MW)

連系線	方向	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
北陸フェンス	北陸向	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	中部・関西向	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

◆ 設定値・参考値内訳【第一年度目・第二年度目とも、内訳がある場合のみ記載】

【第一・第二年度目とも】 ※表中の値は、2024年度末に計算した2025年度の東北東京間連系線（順方向）の値

(MW)

方向	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
東北⇒東京	C2	0~380	0~380	0~380	0~370	0~370	0~380	0~380	0~380	0~380	0~380	0~380	0~380
	平日	0~380	0~380	0~380	0~370	0~370	0~380	0~380	0~380	0~380	0~380	0~380	0~380
	休日	0~380	0~380	0~380	0~370	0~370	0~380	0~380	0~380	0~380	0~380	0~380	0~380

区分は、マージンの区分を示す。シート30参照

2-1-1.年間断面における各連系線におけるマージン設定値（5）

（記載例）数値は2024年度策定の2026年度 平日を参考に例として記載

連系線	方向	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
北海道本州間 連系設備	北海道⇒東北	シート〇〇参照												
	東北⇒北海道													
東北東京間 連系線	東北⇒東京	0~380	0~380	0~380	0~370	0~370	0~380	0~380	0~380	0~380	0~380	0~380	0~450	
	東京⇒東北	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
東京中部間 連系設備	東京⇒中部	600	600	600	600	600	600	600	600	600	600	600	600	
	中部⇒東京	600	600	600	600	600	600	600	600	600	600	600	600	
中部フェンス	北陸・関西向	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	中部向	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
北陸フェンス	北陸向	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	中部・関西向	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
関西フェンス	関西向	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	中部・北陸向	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
関西中国間 連系線	関西⇒中国	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	中国⇒関西	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
関西四国間 連系設備	関西⇒四国	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	四国⇒関西	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
中国四国間 連系線	中国⇒四国	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	四国⇒中国	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
中国九州間 連系線	中国⇒九州	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	九州⇒中国	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

（注）想定需要の見直し等により、マージンの値は変更となる場合がある（以降、同じ）

本資料において、昼間帯は8時～22時、夜間帯は0時～8時および22時～24時を表す（以降、同じ）

需給調整市場に係るマージンは、エリア外調達量が未定のため設定していない（以降、同じ）

東北東京間連系線のマージンの値の内訳はシート13に記載

1. 長期・年間マージン策定におけるマージン設定方針（案）について

- 1-1. 直近1年間のマージン設定実績および系統利用へ与える影響の確認結果まとめ
- 1-2. マージン設定実績（2024年10月1日～2025年9月30日）
- 1-3. 系統利用に与える影響（2024年10月1日～2025年9月30日）
- 1-4. 現在検討を進めている既存のマージンに関わる課題の取扱い

2. 長期・年間マージンの具体的な設定方法について

2-1. 年間断面（2026,2027年度）におけるマージン設定値の考え方について（案）

- 2-1-1. 年間計画における各連系線におけるマージン設定値（1）～（5）

2-2. 長期断面（2028～2035年度）におけるマージン設定値の考え方について（案）

- 2-2-1. 長期計画における各連系線におけるマージン設定値（1）

2-3. 実需給断面におけるマージンの確保理由におけるマージン区分概要

- 2-3-1. 実需給断面におけるマージンの確保理由（1）～（4）

2-4. 全国概念図

- 2-4-1. 全国概念図（マージン合計値）（案）

◆ 長期マージンの具体的な設定方法は以下のとおりとしてはどうか。

- 既存マージンは、現行の実需給断面におけるマージン設定の考え方※1に基づき設定する。
- 参考値（最大値）については、平日の年度最大となる月の分のみ算出する。
- マージン設定値・参考値に区分ごとの内訳がある場合は、合計値とともに内訳を表示する。

※1 マージン設定の考え方は、シート24～27「2-3-1.実需給断面におけるマージンの確保理由」の通り。

2-2-1.長期断面における各連系線におけるマージン設定値（1）

（記載例） 数値は2024年度策定の2027年度～2034年度を参考に例として記載

連系線	方向	2027年度	2028年度	2029年度	2030年度	2031年度	2032年度	2033年度	2034年度	備考
北海道本州間 連系設備	北海道⇒東北	150	150	150	150	150	150	150	150	最大需要時の値(1月平日夜間)
		330	330	330	330	330	330	330	330	マージン最大値(8月平日夜間)
	東北⇒北海道	480	480	480	480	480	480	480	480	最大需要時の値(1月平日夜間)
		570	570	570	570	570	570	570	570	マージン最大値(8月平日夜間)
東北東京間 連系線	東北⇒東京	0～450	0～450	0～450	0～450	0～450	0～450	0～450	0～450	
	東京⇒東北	0	0	0	0	0	0	0	0	
東京中部間 連系設備	東京⇒中部	600	600	600	600	600	600	600	600	
	中部⇒東京	600	600	600	600	600	600	600	600	
中部フェンス	北陸・関西向	0	0	0	0	0	0	0	0	
	中部向	0	0	0	0	0	0	0	0	
北陸フェンス	北陸向	0～700	0	0	0	0	0	0	0	
	中部・関西向	0	0	0	0	0	0	0	0	
関西フェンス	関西向	0	0	0	0	0	0	0	0	
	中部・北陸向	0	0	0	0	0	0	0	0	
関西中国間 連系線	関西⇒中国	0	0	0	0	0	0	0	0	
	中国⇒関西	0	0	0	0	0	0	0	0	
関西四国間 連系設備	関西⇒四国	0	0	0	0	0	0	0	0	
	四国⇒関西	0	0	0	0	0	0	0	0	
中国四国間 連系線	中国⇒四国	0	0	0	0	0	0	0	0	
	四国⇒中国	0	0	0	0	0	0	0	0	
中国九州間 連系線	中国⇒九州	0	0	0	0	0	0	0	0	
	九州⇒中国	0	0	0	0	0	0	0	0	

（注）想定需要の見直し等により、マージンの値は変更となる場合がある（以降、同じ）

本資料において、昼間帯は8時～22時、夜間帯は0時～8時および22時～24時を表す

需給調整市場に係るマージンは、エリア外調達量が未定のため設定していない（以降、同じ）

表中のマージンは最大需要時の値を示すが、北海道本州間連系設備は、最大需要時以外で空容量が小さくなると想定される断面の値も併せて示す。

マージンの値の内訳はシート3に記載

1. 長期・年間マージン策定におけるマージン設定方針（案）について

- 1-1. 直近1年間のマージン設定実績および系統利用へ与える影響の確認結果まとめ
- 1-2. マージン設定実績（2024年10月1日～2025年9月30日）
- 1-3. 系統利用に与える影響（2024年10月1日～2025年9月30日）
- 1-4. 現在検討を進めている既存のマージンに関わる課題の取扱い

2. 長期・年間マージンの具体的な設定方法について

2-1. 年間断面（2026,2027年度）におけるマージン設定値の考え方について（案）

- 2-1-1. 年間計画における各連系線におけるマージン設定値（1）～（5）

2-2. 長期断面（2028～2035年度）におけるマージン設定値の考え方について（案）

- 2-2-1. 長期計画における各連系線におけるマージン設定値（1）

2-3. 実需給断面におけるマージンの確保理由におけるマージン区分概要

- 2-3-1. 実需給断面におけるマージンの確保理由（1）～（4）

2-4. 全国概念図

- 2-4-1. 全国概念図（マージン合計値）（案）

1.実需給断面におけるマーシンの確保理由におけるマーシ分区分概要

▶ 各連系線のマーシ分区分概要は下表のとおり

連系線	方向	A0	A1	B0	B1	B2	C1	C2	長期・年間マーシンの設定の考え方 (and:加算,or:大きい方)
		需給調整市場※1	最大エツト相当※2	需給調整市場※1	EPPS等	EPPS	潮流抑制		
北海道本州間 連系設備	順	○		○			○		C1
	逆	○		○	○		○		B1 or C1
東北東京間 連系線	順	○		○				○	C2
	逆	○		○					—
東京中部間 連系設備	順	○		○		○			B2
	逆	○		○	○				B1
中部フェンス	順	○		○					—
	逆	○		○					—
北陸フェンス	順	○	○	○					A1※3
	逆	○		○					—
関西フェンス	順	○		○					—
	逆	○		○					—
関西中国間 連系線	順	○		○					—
	逆	○		○					—
関西四国間 連系設備	順	○		○					—
	逆	○		○					—
中国四国間 連系線	順	○	○	○					A1
	逆	○		○					—
中国九州間 連系線	順	○		○					—
	逆	○		○					—

※1 需給調整市場で取引する調整力のためのマーシンは、長期・年間断面では設定しない。

※2 原則ゼロとする。但し、電気の供給先となる供給区域の電源のうち出力が最大である単一の電源の最大出力に対して予備力が不足する場合は、不足する電力の値をマーシンとして設定する。

※3 放射状系統時に限る。

2-3-1.実需給断面におけるマーシンの確保理由 (1)

年間・長期断面におけるマーシンは、以下の実需給断面におけるマーシンの設定の考え方にに基づき設定する。

連系線	方向	マーシンの設定の考え方及び確保理由
北海道本州間 連系設備	北海道⇒東北 (順方向)	<p>北海道本州間連系設備が緊急停止した場合に北海道エリアの周波数上昇を一定値以内に抑制するため。具体的には、次の①、②のうち大きい値とする。</p> <p>① 北海道・本州間電力連系設備の運用容量から、当該連系設備が緊急停止した場合に北海道エリアの周波数の上昇が一定値以内となる最大の潮流の値を差し引いた値。〈C1〉</p> <p>② 新北海道本州間連系設備の運用容量から、当該連系設備が緊急停止した場合に北海道エリアの周波数の上昇が一定値以内となる最大の潮流の値を差し引いた値。〈C1〉</p> <p>また、上記に※1〈B0〉および※2〈A0〉を加える。</p>
	東北⇒北海道 (逆方向)	<p>北海道エリアの電源のうち、出力が最大である単一の電源の最大出力が故障等により失われた場合にも、北海道エリアの周波数低下を一定値以内に抑制するため。なお単一の電源の最大出力は発電計画等を踏まえ設定する。〈B1〉</p> <p>但し、次の①、②のいずれかが、上記の値よりも大きい場合は①、②のうち大きい方の値とする。</p> <p>① 北海道・本州間電力連系設備の運用容量から、当該連系設備が緊急停止した場合に北海道エリアの周波数低下が一定値以内となる潮流の値を差し引いた値。〈C1〉</p> <p>② 新北海道本州間連系設備の運用容量から、当該連系設備が緊急停止した場合に北海道エリアの周波数の低下が一定値以内となる最大の潮流の値を差し引いた値。〈C1〉</p> <p>また、上記に※1〈B0〉および※2〈A0〉を加える。</p>

※1 需給調整市場で調達した調整力を使用するためのマーシンの。具体的には、二次調整力②のエリア外約定量。

※2 需給調整市場で調達した調整力を使用するためのマーシンの。具体的には、三次調整力①②のエリア外約定量。

〈 〉はマーシンの区分を示す。シート30参照

2-3-1.実需給断面におけるマーシンの確保理由 (2)

連系線	方向	マーシンの設定の考え方及び確保理由
東北東京間 連系線	東北⇒東京 (順方向)	台風や暴風雪等の予見可能なリスクが高まった場合は、電力系統を安定に維持するため、東京エリア内で想定する送電線の故障により複数の電源が脱落した場合に東北エリアから東京エリアに流れる最大の潮流の値〈C2〉 また、上記に※1〈B0〉および※2〈A0〉を加える。
	東京⇒東北 (逆方向)	※1〈B0〉および※2〈A0〉を加える。
東京中部間 連系設備	東京⇒中部 (順方向)	60Hz系統内で送電線の故障により複数の電源が脱落した場合又は最大電源が脱落した場合に、60Hz系統の周波数低下を抑制するため。但し、東京中部間連系設備を介して東北・東京エリアから電力を受給しても、東北・東京エリアの周波数偏差と60Hz系統の周波数偏差が原則逆転しない値とする。〈B2〉 また、上記に※1〈B0〉および※2〈A0〉を加える。
	中部⇒東京 (逆方向)	50Hz系統内で送電線の故障により複数の電源が脱落した場合、又は最大電源が脱落した場合に、東北・東京エリアの周波数低下を抑制するため。但し、東京中部間連系設備を介して60Hz系統から電力を受給しても、60Hz系統の周波数偏差と東北・東京エリアの周波数偏差が原則逆転しない値とする。〈B1〉 また、上記に※1〈B0〉および※2〈A0〉を加える。

※1 需給調整市場で調達した調整力を使用するためのマーシンの。具体的には、一次調整力・二次調整力①②のエリア外約定量。

※2 需給調整市場で調達した調整力を使用するためのマーシンの。具体的には、三次調整力①②のエリア外約定量。

〈 〉はマーシンの区分を示す。シート30参照

2-3-1.実需給断面におけるマーシンの確保理由 (3)

連系線	方向	マーシンの設定の考え方及び確保理由
中部フェンス	北陸・関西向 (順方向)	※2 〈B0〉 および※3 〈A0〉
	中部向 (逆方向)	※2 〈B0〉 および※3 〈A0〉
北陸フェンス	北陸向 (順方向)	※1 (最大値は、北陸エリアの融通期待量 (最大電源ユニット相当量) 〈A1〉 また、上記に※2※3を加える。
	中部・関西向 (逆方向)	※2 〈B0〉 および※3 〈A0〉
関西フェンス	関西向 (順方向)	※2 〈B0〉 および※3 〈A0〉
	中部・北陸向 (逆方向)	※2 〈B0〉 および※3 〈A0〉

※1 原則ゼロとする。但し、電気の供給先となる供給区域に必要な運転予備力 又は 電気の供給先となる供給区域の電源のうち出力が最大である単一の電源の最大出力に対して予備力が不足する場合は、不足する電力の値をマージンとして設定する。

※2 需給調整市場で調達した調整力を使用するためのマージン。具体的には、一次調整力・二次調整力①②のエリア外約定量。

※3 需給調整市場で調達した調整力を使用するためのマージン。具体的には、三次調整力①②のエリア外約定量。

〈 〉はマージンの区分を示す。シート30参照

2-3-1.実需給断面におけるマージンの確保理由（4）

連系線	方向	マージンの設定の考え方及び確保理由
関西中国間 連系線	関西⇒中国 (順方向)	※2〈B0〉 および※3〈A0〉
	中国⇒関西 (逆方向)	※2〈B0〉 および※3〈A0〉
関西四国間 連系設備	関西⇒四国 (順方向)	※2〈B0〉 および※3〈A0〉
	四国⇒関西 (逆方向)	※2〈B0〉 および※3〈A0〉
中国四国間 連系線	中国⇒四国 (順方向)	※1（最大値は、四国エリアの融通期待量（最大電源ユニット相当量））〈A1〉 また、上記に※2※3を加える。
	四国⇒中国 (逆方向)	※2〈B0〉 および※3〈A0〉
中国九州間 連系線	中国⇒九州 (順方向)	※2〈B0〉 および※3〈A0〉
	九州⇒中国 (逆方向)	※2〈B0〉 および※3〈A0〉

※1 原則ゼロとする。但し、電気の供給先となる供給区域に必要な運転予備力 又は 電気の供給先となる供給区域の電源のうち出力が最大である単一の電源の最大出力に対して予備力が不足する場合は、不足する電力の値をマージンとして設定する。

※2 需給調整市場で調達した調整力を使用するためのマージン。具体的には、一次調整力・二次調整力①②のエリア外約定量。

※3 需給調整市場で調達した調整力を使用するためのマージン。具体的には、三次調整力①②のエリア外約定量。

〈 〉はマージンの区分を示す。シート30参照

1. 長期・年間マージン策定におけるマージン設定方針（案）について

- 1-1. 直近1年間のマージン設定実績および系統利用へ与える影響の確認結果まとめ
- 1-2. マージン設定実績（2024年10月1日～2025年9月30日）
- 1-3. 系統利用に与える影響（2024年10月1日～2025年9月30日）
- 1-4. 現在検討を進めている既存のマージンに関わる課題の取扱い

2. 長期・年間マージンの具体的な設定方法について

2-1. 年間断面（2026,2027年度）におけるマージン設定値の考え方について（案）

- 2-1-1. 年間計画における各連系線におけるマージン設定値（1）～（5）

2-2. 長期断面（2028～2035年度）におけるマージン設定値の考え方について（案）

- 2-2-1. 長期計画における各連系線におけるマージン設定値（1）

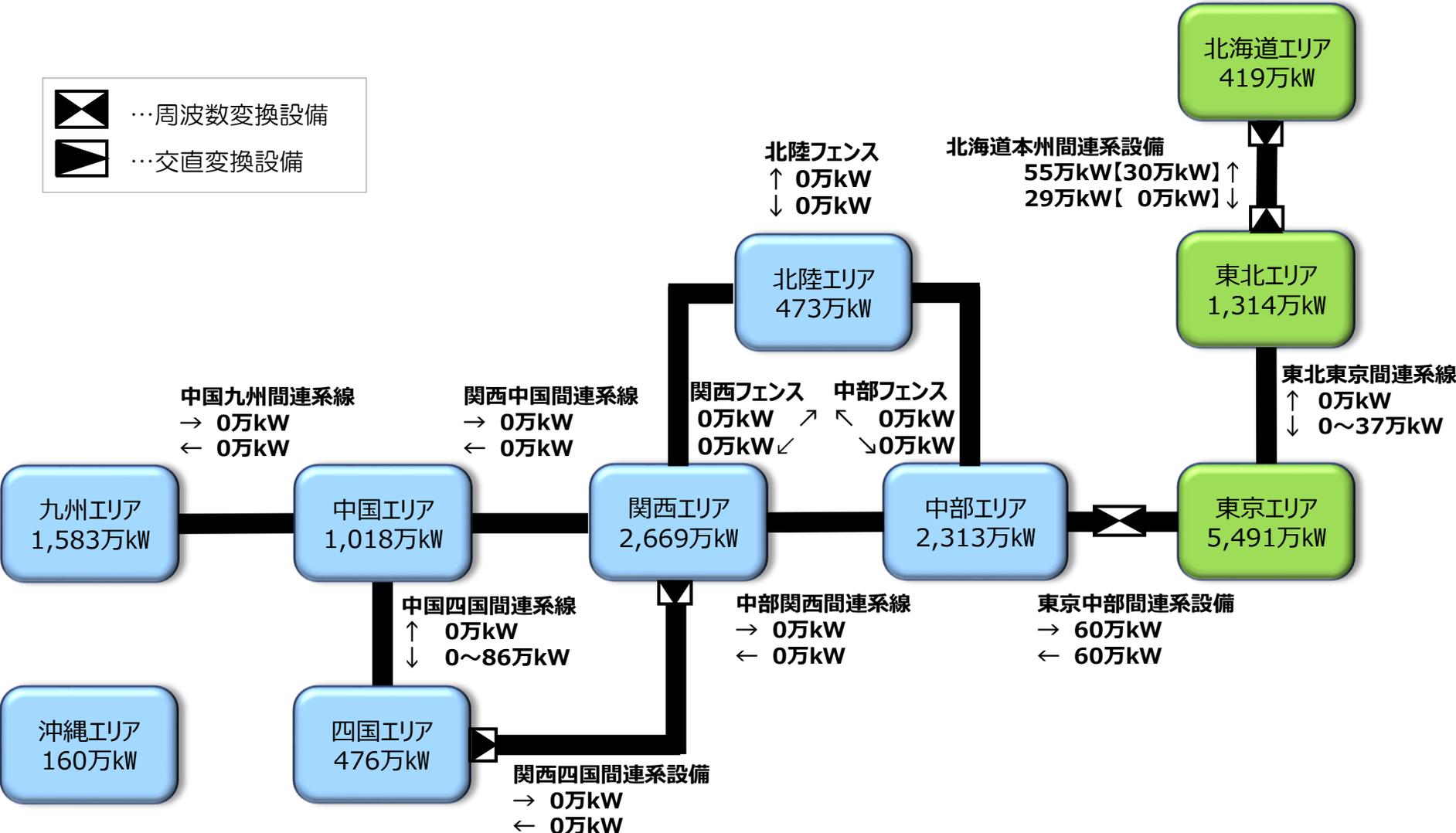
2-3. 実需給断面におけるマージンの確保理由におけるマージン区分概要

- 2-3-1. 実需給断面におけるマージンの確保理由（1）～（4）

2-4. 全国の概念図

- 2-4-1. 全国の概念図（マージン合計値）（案）

（記載例） 数値は2024年度策定の2025年度の値を参考に例として記載



・各エリア内の数値は、2025年度の送電端最大需要電力予想（H3）を表す
 ・【 】内の数値は、北本連系設備作業に伴う運用容量最小時のマージンを示す

【予備力・調整力に関連したマージン】

内は当該区分に該当する現状のマージン

マージンの目的 マージンの分類	通常考慮すべきリスクへの対応		稀頻度リスクへの対応
	エリア外調達分	エリア外期待分	エリア外期待分
「需給バランスに対応したマージン」 需給バランスの確保を目的として、連系線を介して他エリアから電気を受給するために設定するマージン	A 0 ・三次調整力① ・三次調整力②	A 1 ・最大電源ユニット相当	A 2 ・該当なし
「周波数制御に対応したマージン」 電力系統の異常時に電力系統の周波数を安定に保つためまたは周波数制御（電源脱落対応を除く）のために設定するマージン	B 0 ・一次調整力 ・二次調整力①※1 ・二次調整力②	B 1 ・東京中部間連系設備（EPPS：逆方向） ・北海道本州間連系設備（緊急時AFC：逆方向）	B 2 ・東京中部間連系設備（EPPS：順方向）

※1：2027年度から適用

【連系線潮流抑制による安定維持のためのマージン】

マージンの分類	マージンの目的	通常考慮すべきリスクへの対応	稀頻度リスクへの対応
「連系線潮流抑制のためのマージン」 電力系統の異常時に電力系統を安定に保つことを目的として、当該連系線の潮流を予め抑制するために設定するマージン		C 1 ・北海道本州間連系設備（潮流抑制）	C 2 ・東北東京間連系線（潮流抑制）